



# キャンパスライフ

## Tottori University Yonago Campus

NO. 20

2021年1月  
発行/鳥取大学医学部

令和2年11月誕生!!

## 臨床感染症学講座

令和2年10月28日、鳥取県知事公邸にて、鳥取県による寄附講座「臨床感染症学講座」の協定締結式が行われました。「感染症専門医」を育成するという、全国的にもまだ数少ないこの取り組みについてご紹介します。

### そもそも感染症専門医とは？

昨今、世界を震撼させる「コロナウイルス感染症」や「肺炎」などで広く知られる「感染症」。全世界の年間死亡者数の3分の1を占めています。

この感染症を専門とする医師「感染症専門医」。感染症専門医になるためには、基本領域となる診療科(内科、小児科など)の認定医・専門医を取得後に、更なる研修等を経て、初めて感染症専門医の試験の受験資格を得ることになります。この試験に合格してやっと、感染症全般に関する知識や感染制御のスキルを有する感染のスペシャリ

スト「感染症専門医」の誕生となるわけです。

感染症専門医の具体的な役割としては、医療機関において医師として感染症診療や感染制御の業務にあたることはもちろんですが、その他にも、行政機関や研究者として公衆衛生の整備や感染症の研究推進に携わるなど様々です。いずれの分野にせよ、その知識を感染症専門医同士だけではなく、その他の医療従事者や地域住民などに広く伝え、地域一体となって感染症の拡大防止に努めていくことが求められています。

### 求められる感染症専門医の育成機関

感染症専門医は少しずつ増加しているものの、未だ十分な人数とは言えません。鳥取県で言えば、5名の感染症専門医(うち、3名が本学部附属病院に在籍)しかないのが現状です(2020年10月現在)。その理由の一つとして挙げられるのが、育成機関の不足です。

このような背景を鑑み、令和2年11月に鳥取大学医学部と鳥取県が手を取り合い誕生したのが、感染症専門医の育成講座「臨床感染症学講座」です。これは全国に先駆けた取り組みとなっており、本学部在籍の医学部生や本院の研修医をはじめ、感染症専門医を目指す地域の医師や大学院生など広く門戸を広げ人材養成を行っていく予定です。更には、この講座から羽ばたいていった感染症専門医が、次世代医師へ教育・研究を行うことで次の感染症専門医を育成することにより、地域医療の発展向上に貢献します。

附属病院の診療科  
「感染症内科」と一体となり  
即戦力となる医師の育成に  
取り組みます!!



臨床感染症学講座  
寄附講座教授 千酌先生

## 安来市 白鳥ロード



コハクチョウは繊細な生き物です。  
近づいて脅かしたり、餌を与えるこ  
とはしないでください!!

米子市のお隣、島根県安来市の能義平野には、例年コハクチョウが飛来してくることから、通称「白鳥ロード」と呼ばれる道があり、市民に広く親しまれています。

白鳥と言えば湖で見かけることが多いのですが、ここ白鳥ロードの周辺は、田んぼで羽を休め、落ち穂をついばむコハクチョウの姿が観察できる珍しいスポットです。稲刈り後の淋しかった田の風景に賑わいが戻ります。

昭和50年頃から飛来するようになったといい、今では千数百羽のコハクチョウが渡ってきます。11月上旬ころから飛来をし、中海周辺で越冬。2月中旬頃から故郷へ帰り始め、3月中旬にはすべてのコハクチョウが旅立って行きます。遠くユーラシア大陸からの美しい来客に、ぜひ会いに行ってみてください。



